

第II章 調査概要

1 調査地域

調査地域の
区・地区名

第10・11・13・20次調査地域は、奈良市佐紀町の旧小字東大宮と同松本とにぞくする、東西300m、南北90mの範囲である。調査地域の南と西とは、通称一条通（県道谷田～奈良線）と、通称歌姫街道（県道木津～平城線）とによって、それぞれ画されている。また、調査地域の東端は、佐紀町民家密集地の東限をなす崖線によって画されており、北は道をへだてて民家密集地に接している。本調査地域を、当研究所の遺跡標示方法にしたがってあらわすと、6ABB区A・B・C地区、6AAO区C・D・F・G・H・I・K・L・M・N・O・P・Q・R地区、6AAB区U地区に相当する¹⁾ (Fig. 2)。

平城宮は、北に高く南に低い、なだらかな斜面上に立地している。本調査地域は、平城宮の中で最も高い場所（標高73～74m）を占めており、近鉄線路付近（標高64～65m）との比高差は約10mである (Fig. 1)。調査地域は、全域にわたってほぼ平らで、いちじるしい高低差はない。ただし、東端の6AAB区U地区は、中央の6AAO区にくらべて1m低い。そしてU地区東端の崖を境として東側は、さらに一段低くなっている（標高71.9m）。

本調査地域は、発掘調査当時は水田であったが、1970年までに大部分が国有地となり、このうち、6ABB区と6AAO区の一部とにおいては、1971年に実施した整備によって、主要建物を盛土でしめし、柱位置を植栽によって表示している（巻首図版）。

内裏内郭・
外郭の区別

今回の調査地域は、平城宮の第2次内裏地域（以下、たんに内裏と記すときは、第2次内裏地域の内裏をさす）に北接している。内裏の中核をなす内郭の周囲には、築地回廊を方形（東西約176.9m、南北約184.3m）にめぐらしており、さらにその外側の広い範囲を築地（東西約280.5m、南北推定375m）でかこんでいる。この築地回廊と築地との2重の囲みが画する部分を、「内裏外郭」とよんで、「内裏内郭」と区別する。

内裏北外郭

この報告書が対象とするのは、内裏の北面築地回廊と北面築地とによって南と北とを限り、東面・西面両築地によって東・西を画する範囲であって、これを「内裏北外郭」と呼称する。内裏北外郭は、東西に長い地域をなしている。記載にあたっては、この地域を西・中・東の3区分け、中区はさらに西半部、東半部に細別してあつかう (Fig. 2・11)。

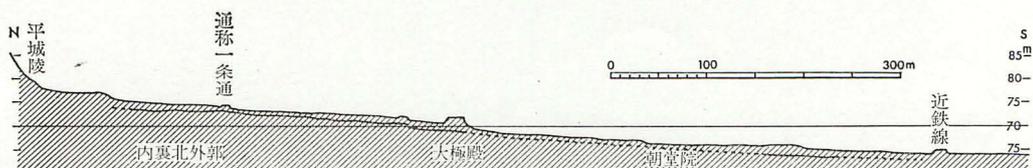


Fig. 1 調査地域の標高と比高

1) 平城宮の地区割については、『平城宮報告Ⅱ』pp. 114 参照。